

今後の忠霊塔の在り方

高知市一宮地区遺族会

会長 松崎 三保

私が「遺族会」の存在を知ったのは、松崎家に嫁いでからでした。

当時、戦没者の妻である、主人のおばあちゃんが一宮地区の会長をされており、私はおばあちゃんと一緒に会報を配ったり、護国神社にお参りに行ったりしていました。

数年後、おばあちゃんの具合が悪くなり、会長を別の方に代わってもらいましたが、それから10年くらい経った頃、その方も体調を崩され、再び我が家に「誰か会長をしてくれないか」と相談に来られました。おばあちゃんと活動を共にした経験もあったことから、それでは私に、という話になりましたが、私が会長の役割を引き受けるにあたって一番の心配事は、「忠霊塔を守っていく」ということでした。

なぜなら、一宮・薮野地区の忠霊塔は、行政や地域の手助けがなく、遺族会だけが掃除をして守っていたからです。

一宮の忠霊塔は小高い山の上にあり、塔の前には広場があります。その広場は地域の災害時避難場所に指定されているので、広場については年数回、担当の方がお掃除をしてくれているようですが、忠霊塔の「護持」とはまた意味合いが違いますし、年々、忠霊塔本体の老朽化は激しくなっています。

遺族会の力だけで修繕を行うにも限界があり、お掃除だけでなく、維持管理についても大きな課題があります。

高知市には、鷹匠町に行政が管理する柳原忠霊塔というのがあり、各地域の忠霊塔をお世話できる人がいなくなったら高知市の遺族はそこへ参拝に行く…。という話も耳にしました。

これから10年後、20年後を考えたとき、きっと私が最後の一人となってしまふ…。そんな心配や不安を抱きながら就任した頃のお掃除は、やはり遺児の方が

中心で平均年齢が高かったのですが、最近では会員さんのご家族も参加して下さって平均年齢が下がってきました。また、そういった方々がプロワーカーや草刈り機を持参して下さることで作業効率が高くと上がり、これまで手作業が中心だった会員さんの負担も大きく減少しています。

私の子どもたちも、忠霊塔の清掃をきっかけにその存在を初めて知ることとなり、そういった点で少し希望の光が見えるように思います。

ただ、現実にはやはり遺族の高齢化と会員の減少という大きな問題が一宮地区にも迫ってきています。

そんなことから今後、なるべく早く、みんなが安心できるような方向に進んでいってほしいと願っています。

令和2年3月25日発行

高知県遺族会報第78号より